

■ 第9回 新潟駅万代広場等整備検討委員会

日時：令和4年2月8日（火）午後3時～

会場：新潟市 新潟駅周辺整備事務所ほか

（司 会）

ただいまから第9回新潟駅万代広場等整備検討委員会を開催いたします。

私は本日の進行役を務めます新潟駅周辺整備事務所次長補佐の中沢と申します。よろしくお願いいたします。

本日の検討委員会は、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の観点からWebでの開催とさせていただきます。はじめに、本日の委員の皆様の出席状況でございますが、すべての委員の皆様からご出席していただいております。

なお、委員会の進行に際しましては、発言時以外はマイクをミュートにさせていただくようお願いいたします。また、発言の際にはズームの「挙手」をいただくようお願いいたします。佐野委員長のほうからご指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。

次に、本日の配付資料の確認をお願いいたします。資料1「新潟駅新万代広場基本・実施設計の中間報告でいただいたご意見への対応について」、資料2「新潟駅新万代広場基本・実施設計について（概要版）」、資料3「新潟駅新万代広場整備イメージ図」となっております。事前にメールで送付させていただきますが、ご説明させていただく際に、画面にも表示させていただきますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、次第2、議事でございます。以降につきましては、佐野委員長から進行をお願いいたします。

（委員長）

長岡技術科学大学の佐野でございます。よろしくお願いいたします。

次第の2、議事に入ります。（1）「新潟駅新万代広場基本・実施設計について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

（事務局）

新潟駅周辺整備事務所の鈴木です。議事（1）「新潟駅新万代広場基本・実施設計について」、ご説明いたします。今、画面のほうで資料の共有を行いますので、少々お待ちください。

資料につきましては、資料1から資料3までありまして、基本・実施設計の概要版として取りまとめたものが資料2となっております。この資料2につきましては、設計全体に係る詳細な内容となっております、ボリュームもかなり大きくなっておりますので、適宜、ご覧いた

できればと考えております。

本日のご説明につきましては、前回の中間報告において委員の皆様からいただいたご意見への対応について中心にご説明させていただきたいと考えておりますので、資料は、資料1に基づいてご説明いたします。

資料1の1ページ目をご覧ください。新潟駅新万代広場につきましては、昨年の6月14日の前回検討委員会において、委員の皆様からモニュメント等の設置検討、脱カーボン、SDGsの実現に向けた対策、シェルターの配置や大きさ、バリアフリー、ジェンダーレスを考慮した設計といったご意見をいただいたところです。いただいたご意見を踏まえ、これまで検討した内容と主な設計項目について、それぞれご説明いたします。

2ページをご覧ください。はじめに、モニュメント等の設置検討（隠れキャラ待ち合わせ場所にもなる）についてです。検討内容としては、「訪れた方が『新潟らしさ』を感じられるような施設」、「待ち合わせ場所にもなるようなモニュメンタルな施設」、「何気ない施設にも『新潟らしさ』を表現」について、検討を行いました。

主な設計項目として、一つ目、左側のイメージ図に記載のとおり、新潟に飛来する白鳥や飛翔感を表現した大屋根シェルターを駅から降り立ったかたが最初に目にする中央広場に配置し、「新潟らしさ」を感じられるモニュメンタルな空間を演出。さらには駅からまちへと羽ばたいて飛び出すような飛翔感を表現することとしました。

二つ目として、右のイメージ図に記載のとおり、「新潟らしさ」を感じられるような施設形状や附属施設として、広場中央における八つの里山のほか、意匠性を施した円形のミスト、また港まちの表現として、船の係留柱をイメージした車止めや、係留ロープをイメージした横断防止策などをところどころに配置しました。

三つ目として、「新潟らしさ」を表現した川の流れや四季を意識した演出照明について、シェルターのガラス屋根においてテーマを持たせた照明を映し出すことにより、川の流れや桜、雪などの新潟の美しい四季の景色を演出できるよう設計を行いました。

続きまして、3ページをご覧ください。脱カーボン、SDGsの実現に向けての対策について（県産材の使用も含めて）についてです。検討内容としては、「『ゼロカーボンシティ』の実現を目指して、『脱カーボン』を推進する取組みを行う」、また「『持続可能なまちづくり』を進めるため、『持続可能な開発目標（SDGs）』達成に向けた取組みを行う」といったところを検討しながら設計を行いました。

主な設計項目として、はじめに脱カーボンについては、中段のイメージ図にありますとおり、県産材を使用したデッキ・ベンチの整備、多様な植栽によるCO₂削減、また、広場全体の電力として、再生可能エネルギーを活用した電力供給、こちらは新潟スワンエナジーを検討して

おります。また、広場内の横断歩道部分には地中熱を活用した融雪装置を設置することとしました。

下段になりますが、SDGsに関する取組みとして、誰でも安心・安全に利用できるトイレを設置いたします。このトイレにつきましては、ユニバーサルデザイン、ジェンダーレスを考慮した施設としております。また、広場内の里山等においては、ベンチやデッキなど、車いすや補助犬などに配慮した施設となるよう設計しております。この辺りのバリアフリーなどについては、後ほど、また詳細をご説明いたします。また、廃プラスチックや間伐材を含んだリサイクルウッドを活用したベンチも設置することとしております。

続きまして、4ページをご覧ください。シェルターの配置や大きさについて（意匠や機能性を含め整理）についてです。検討内容としては、「歩行者動線を考慮したシェルター配置や幅員の再考」、「各種機能性を含めたシェルター構造」について検討を行いました。

主な設計項目としては、広場利用に伴うシェルターの配置、幅員、規模について改めて整理を行いました。右側の四角枠で囲ってある図が、歩行者動線における断面図になっております。いちばん上の赤枠が標準部分であり、幅員につきましては、車いす同士がすれ違うことができる最小幅員に加え、白杖を持ったかたでも円滑に通行できる幅員として3メートル以上確保することとしております。また、高さにつきましては、シェルターの屋根の素材がガラスということもありまして、傘を持ったかたが手を伸ばしても支障のない高さとして3.2メートル以上確保することとしております。

次に、黄色い枠の部分がバス待ち空間となります。幅員については、通行量を考慮し、通行帯の幅員を3.7メートルとしており、これに加え、バス待ち空間として2メートル確保することとしております。高さにつきましては、バスに乗る際、雨や雪になるべく当たらないよう、バスの車体に少し屋根がかかるようにしており、バスの車体の高さを踏まえ、4.7メートル確保することとしております。

次の、緑色の枠がバスの降車部分になります。幅員については通行帯3.0メートルに加え、バスを降りた方が円滑に通行できるよう2.35メートル確保することとしております。なお、高さにつきましては、バス待ち空間と同様となります。

次に、青枠が一般車とタクシーの降車場部分になります。幅員につきましては、通行量を考慮し、通行帯の幅員を3.7メートルとしており、これに加え、車やタクシーから降りるための空間として1.2メートル確保することとしております。高さにつきましては、バスと同様、雨や雪になるべく当たらないよう車やタクシーに屋根がかかるようにしており、車の高さ等を踏まえ、4.0メートル確保することとしております。

続きまして、5ページをご覧ください。バリアフリー、ジェンダーレスを考慮した設計検討

(トイレ、ベンチ、点字ブロック設計など) についてです。検討内容としましては、バリアフリー、ジェンダーレスを考慮した施設設計及び施設配置の検討を行いました。なお、設計にあたりましては、障がいのあるかたが加盟する団体などを通じて、実際に車いすを利用されているかたですとか、目の不自由なかたなどからご意見を伺いながら設計を進めてまいりました。

主な設計項目として、一つ目、「ジェンダーレス、バリアフリーを考慮したトイレ設計」です。右側に拡大図を記載しておりますが、車いす使用者優先トイレを設置しまして、そこにベビーチェアですとか、オストメイト、ユニバーサルシートも設置することとしております。また、「誰でもトイレ」ということで、入り口を奥に配置することで正面から人の出入りを見えなくするなど、ジェンダーレスに配慮した配置としております。なお、トイレ内の案内サインにつきましても、壁面への記載のほか、目の不自由なかたにも案内が可能となるよう、触知図も設置いたします。このほか、トイレの一角には補助犬用のトイレも設置いたします。

次に、6 ページをご覧ください。主な設計項目の二つ目として、「誰でも利用しやすい施設設計」ということで、子どもから高齢者、車いすの方など、誰でも利用しやすい施設計画としました。はじめに、Aの部分では車いすのかたに配慮したデッキですとか、補助犬とともに憩えるベンチ、またBとCの部分では、車いすの方も里山を散策でき、また花の香りですとか土のぬくもりを楽しめるような緩やかなスロープの設置やデッキの高さの設定としております。また、Dの部分では、子どもや高齢者、また体の不自由な方など、多様な座り方ができる段違いのいろいろな高さがあるベンチを設置することとしました。

三つ目として、「バリアフリーを考慮した一般車整理場の形状変更」を行いました。前回の委員会においては、いちばん下の図にありますとおり、一般車整理場から広場中央部へアクセスする場合、車両通行箇所を横断する必要がありました。このため、安全面を考慮し、広場中央部に一般車整理場を寄せることで身障者用スペースから広場への移動がしやすい形状へ変更したものでございます。また、実際に車いすを利用されている方や目の不自由なかたなどからご意見を伺った中で、身障者用駐車スペースを2台に増加したものでございます。以上で、資料1の新潟駅新万代広場基本・実施設計の中間報告でいただいたご意見への対応について、説明を終わります。

引き続きまして、資料3をご覧ください。このたびの基本・実施設計で取りまとめました内容について、イメージ図を記載したものです。左上の東大通上空から見た広場全体の鳥瞰図になっています。この中の赤い三角印が視点となって、それぞれのイメージパースが視点の番号とリンクしております。このイメージ図のように中央部の大屋根シェルターですとか、里山などで新潟らしいモニュメンタルな空間を形成し、脱カーボン、SDGsの実現に向けた取組みですとか、バリアフリー、ジェンダーレスに配慮しながら緑あふれ、人々が憩い、集える新潟

の陸の玄関口としてふさわしい広場となるよう、整備を進めていきたいと考えております。以上で、議事（１）「新潟駅新万代広場基本・実施設計について」説明を終わります。

（委員長）

説明ありがとうございました。ただいまのご説明の内容につきまして、ご質問やご意見がございましたらお願いいたします。橋本先生、お願いします。

（橋本委員）

橋本です。段々と現実的に完成に近づいてきていると思うのですが、私が気になったのは、モニュメントの設置のところと関連するところなのですが、ライトアップの新潟らしさの川の流れの演出というのは、これはフィックスで常にこの演出がされているということなのでしょうか。それとも、あるイベントに合わせて、このようなシーンが作り込めるような形で、通常のシーンと、要するにイベントを示すシーンと、どんな状態なのでしょうか。そこを詳しくお願いいたします。

（事務局）

新潟市の加藤でございます。本日は、ありがとうございます。ご質問のシェルターの演出照明でございますけれども、今回、当初設計の中で、ただ照明が点くということでは、あまり意味がありませんので、最低、四季をあらわすような４パターンの演出ができるようにしておりますが、この光の演出は、制御盤、コンピュータを使って、さまざまな演出ができるようにはなっております。ただ、最初からいろいろなパターンを設計の段階で、設計者に委託をして作ってしまうのではなくて、そのときどき、いろいろなイベントですとか、そういったものに合わせて、また新たに増やしていくと。以前、私、橋本先生とお話ししたこともありますけれども、例えば、そういった業者だけではなくて、学生さんからのご提案ですとか、そういったものも考慮に入れながら、変化を楽しんでいただける、あるいはイベントに合わせた特別な演出照明をしていくといったようなことが可能になるような機器を設置する予定にしております。

（橋本委員）

通常のシーンというものを、まずきちんと押さえなければいけないところかなとは思いますが、あまりにも目まぐるしく変える必要はないのかなと思います。

それと、LEDは色味がいろいろできてしまうのですが、やはり広場として、あとは周辺環境等の考えをもって、落ち着いた空間にするのか、賑やかな商業施設みたいな形にするのか、方向性のニュートラルな状態のシーンというものをしっかりと踏んだ中で、演出というものが出てくると思うので、光も重要な要素だと思うので、よろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございます。毎日、目まぐるしく演出を変えるといたことは考えておりません

で。

(橋本委員)

そういうわけではないですね。

(事務局)

普段は、必要な通行が安全に保たれるような照明をベースとしておきながら、演出照明は時間、時期を見ながら使っていくということで、これからスケジュール等を組んでいきたいと思っております。

(橋本委員)

分かりました。ありがとうございます。

(委員長)

ありがとうございます。ほかにご覧いませんか。中村委員、お願いいたします。

(中村委員)

ご説明ありがとうございました。たくさん聞きたいことがあるのですが、まず、資料1にはユニバーサルデザインに配慮したものにしますという、トイレの説明があるのですが、中身に入っていくとバリアフリーになってしまうのです。でも、やっていることはユニバーサルデザインなので、もうここはユニバーサルデザインというふうに書いてよろしいのではないかなと思いました。

それから、少し分からないことがあるのですが、お手洗いについてなのですが、非常用の呼び出しをお付けになると思いますけれども、その呼び出しはどこにつながって、誰が来るのかというようなところまではお話があったのかどうか教えてください。

それと、もう一つあるのですが、やはり精神・知的障がい者の方々に対しての配慮を、これからはもっとしていくべきだと考えております。人混みを避けた静かな空間というものも求めるというところで、カームダウンやクールダウンというような言葉を使うのですが、そうした場所を、お手洗いのところに作れるといいなという印象を持ちました。

そして、もう一つ、遅くともというか、運営のほうともあるのですが、やはり多様なお客様が来られる、インバウンドでも来られるということで、多言語での表記というものが、おトイレの中で、どのように考えられているのか、ご説明があれば嬉しく思いますし、また、そういったお客様のほうが先に事前に情報を欲しいという要望が、この頃は多いと聞いておりますので、お客様のお問い合わせに対して、寸法や面積がすぐに言えるような準備をなさっていきながらハードとソフトが噛み合うような形で、美しくて歩きやすく使いやすいお手洗いになるといいなと思っています。

(事務局)

再び加藤でございます。順番にお答えさせていただきます。ユニバーサルという表現とバリアフリーという表現の統一については、ここで私どももユニバーサルの考えがベースになっていたと思いますので、統一させていただきます。

それから、2番目のお手洗いの非常の呼び出しですが、これはご存じだと思いますけれども、中でボタンを押す、そのボタンの箇所をそれぞれ考えておりますが、外で灯りが点いて音も出るというようなところが入り口の脇あたりにつくことになっておりますし、また、今日ご説明しておりませんし、まだ形状が決まっておりますが、このトイレのすぐ近くに交番が設置される予定になっております。そちらに近いところで音が、あるいは光が発せられるということになりますので、ある程度、配慮はできるのかなと思っております。

それから、精神障がいの方への静かな空間ということについて、少し配慮が足りないかもしれませんが、資料1の5ページにトイレの図面がありますので見ていただきますと、トイレの平面図の図面で言う上のほう、ガラス面と、それから小さく「庭1」、「庭2」と書いてあるところがありますが、この詳細は固まっておりますけれども、ここから眺める庭の雰囲気は今、検討しておりますし、こういったところが少し静かな空間を眺めていただくということができるようになっておりますが、ご指摘のように、例えば少し座ってここで心を落ち着かせるといったようなことができるといった場所も、これからどの程度入れられるか分かりませんが、検討してまいりたいと思います。

それから、多言語表記の件ですが、これは間違いなく必要だと思っておりますし、最低、英語、そして新潟の場合、やはり中国語、韓国語、ロシア語といったようなところを求められると思いますので、できるだけ配慮してまいりますし、また一部、デジタルのサイネージも検討しておりますので、そちらでできるだけ配慮していきたいと思っております。ありがとうございました。

(委員長)

ありがとうございました。よろしいでしょうか。ほかに、ご意見・ご質問ありませんか。

(中村委員)

もう一つ。やはり使用者からすると、お手洗いが空いているかどうかということ、入り口のところで空室かどうかという情報がほしいという要望があるのですけれども、そうしたことを取り付けていくということは考えていらっしゃるでしょうか。

(事務局)

今のところ、そこまでは検討していなかったのですが、どこまでできるのか、何かいい方法があったら教えていただきたいと思っております。変な話ですけども、中にカメラをつけてテレビに映すにわけにはいかないような場所ですので、何かしら方法があるようであれば、あとでご教示

願えればと思います。よろしく願いいたします。

(中村委員)

分かりました。

(委員長)

よろしく願いいたします。ほかに、ございませんか。藤澤委員、お願いいたします。

(藤澤委員)

同友会の藤澤でございます。今般も今までの意見を取り入れていただきまして、いろいろ検討していただいたということで、ありがとうございました。その中で一つ、シェルターについてなのですけれども、機能性というか風雪であるとか風雨を意識して、かなりシェルターの形状が変わったようなイメージでございます。新潟の潟とか川とかを表現するということだったので、これを降り立ったかたが、ある種、ぱっと見、そういうふうに捉えられるのかどうかという、若干、機能性を重視したことで弱くなっているような気がするのです。川を表す直線のところでは細かなアールがいろいろなところに入っておりますけれども、これは例えば施設を作るときに、経費面を考慮しある程度、直線にしてしまってもいいのではないかなという感じもしました。あえて潟というものを強調するために。ですから、下のほうを歩いていたときに、上のほうのアールというものは、あまり気にならないのかなということもありましたし、前にも申し上げたとおり、ペDESTリアンデッキから見たときに、例えば新潟のNを示すようなサインが出てくるだとか、そういうようなイメージのほうがよろしいのではないかなという気がして、細かなアールは、あまり意識されなくてもいいのではないかなという感想を持ちました。

それと、質問でございますけれども、資料3の右上のところの広場ですけれども、これはあえてどちらのほうが、例えばステージがどちらの方向を向くというような意識というか、造りとしてあるものなんでしょうか。方向的にどちらのほうが中心になるのかイメージがあれば、それも教えていただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。シェルターの形状については、イメージとしては、これが潟や大河をあらわすということについては、そのポリシーは変わっておりませんので、もう少し、これがそういったものに見えてくるようなところ、今度は少し説明調になるかもしれませんが、このイメージを説明するようなものをどこかで用意できればなと思っています。直線にすることによって、もしかすると若干の経費は変わるかもしれませんが、これだけの大きさのシ

ェルターがかなりの面積でできてきますので、今の中で、どの程度、経費を圧縮できるかについて現在、鋭意積算に向けた努力をしております。その辺は努力してまいりたいと思っております。

それから、広場の向きということでしたでしょうか。2番目のご質問がよく分からなかったので、もう一回お願いできますか。

(藤澤委員)

資料3の右上の図ですけれども、広場については、どちら側のほうに、例えばですけれども、催し物がある場合にステージを設ける場合は、どちらのほうに中心が来るようなイメージで考えられているのかなと思って質問しました。

(事務局)

分かりました。ありがとうございます。今、イベント等については、できれば単独で広場だけでやるのではなくて、JR新潟駅の1階部分、2階部分との連携といったものを考慮しておりますので、新潟駅側にイベントができる、あるいはステージが設けられる、キッチンカーが並べられるといったようなスペースを設けておりまして、そこには大屋根もかかってまいりますし、また床には給排水、電気等の設備を、所定の中ですけれども、できるだけ用意することにしております。ということですので、イベントは新潟駅に近いほうを中心として今は考えておりますし、これまでもイベントの業者さん等から若干聞き取り等もしながら今、検討を進めてきたところです。

(藤澤委員)

ありがとうございました。

(委員長)

ありがとうございました。ほかに、何かご意見・ご質問ございますか。

(阿部委員)

商工会議所の阿部でございます。よろしく申し上げます。橋本先生の話と少し被るのですが、シェルターの屋根等、様々なところを制御室等で電気か何かをコントロールするのでしょうかということと、南口では冬になるとイルミネーションをやっているのですけれども、万代広場のほうで、ああいうイルミネーション等をやれるような電源も含めてですが、環境になっているのでしょうかということの二つです。よろしく申し上げます。

(事務局)

分かりました。ありがとうございます。照明のコントロールにつきましては、電源、それから照明の色や、点く、点かない、そういったものをコントロールするための制御盤を真ん中のエスカレーター、階段の辺りの近くに制御盤を置くスペースを用意しておりまして、そこでコ

ントロールすることになると思います。ただ、今はこういったものを組み込んでいくということは、違う場所でコンピュータ上でプログラムを作って、現場でそれを制御盤に移す、コピーするといったようなことになろうかと思っています。まだ詳しい仕様は決まっておきませんが、実際はどこかの事務所なり研究所なり大学等で、そういったものを作って現地でコントロールする装置に移していくというような作業になるかと思いますが、そのスペースは用意してございます。

それから、イルミネーションですが、例えば南口のような樹木にLED球をクルクル絡めていくというようなところについては現在、検討しておりませんが、電源はいくつか近くに整備する場所がありますので、そこから配線をすれば不可能ではないと思っておりますが、現在、それについての検討はしておりません。シェルターの照明が演出照明になると、これでいくつもありですし、また、まだ詳しくは決まっておきませんが、今までの樹木に電球を絡めていくといったような演出ではなくて、例えばですけれども、先ほどミストが出る部分をいくつか設置し、里山の中にミストが出る部分がございますが、そういったものを照明でいろいろな色で照らし出して、ぼんやりとした照明がカラフルにコントロールできると、そんなふうなことも考えておきまして、それについてはまだイメージ図はできておりませんが、これからどこかの段階で見せてできるようになっていければと思っております。

(阿部委員)

ありがとうございます。いい悪い、センスがある、ないは別として、今、北京の冬季オリンピックをやっている、テレビで見ると、あのケバケバしい建物をひっくるめたイルミネーションは、あれはあれですごいなと思いつつ見ていたものですから、新潟駅の駅舎を含めて何かすごいことができたなら、それはそれでシンボリックなものになるかもな、なんて思ったから質問させていただきました。ありがとうございました。

(事務局)

実は、今回設置してある演出照明の機械のほかに、私どもいろいろな業者さんと接触した中で、何かイベントをするときには電源さえあれば、かなりさまざまなことができるということを知っておりますので、例えば、まだ予算がついたわけではないので言えませんが、万代広場のオープンのときには、そういったものを駆使しながらインパクトのあるオープニングイベントなどができたり、あるいはまたときどきそういったものができたらいいなとも思っております。ご協力よろしくお願いたします。

(阿部委員)

ありがとうございました。

(委員長)

ありがとうございました。ほかに、ございませんか。

(平山委員)

平山なのですが、一つ教えていただきたいのですけれども、一般の駐車場のところのレイアウトで、とても障がい者の方や車いすの方に、やっと整ったなというレイアウトになったと思っていますけれども、せっかく降車場のほうは屋根を出して乗り降りのかたにやさしいということがあるのですけれども、車いすで駐車場に入れて、ご自分で中に入りたいと、せっかくそのスペースの利便性はいいのですが、その上にも屋根があるというのが最近公共の建物なんかにもよく見かけますし、そういう方は特に乗り降りに時間がかかるので、そのところまで屋根があると、とてもそういう方は使い勝手がいいのではないかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。まだもう少しお金をかけていただくような提案というのは可能でしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。そこまで今、正直なところ検討がいておりませんで、車いす用の駐車場、先ほど2台に増やしたということを申し上げましたが、たしかにここで車いすをお使いの方が運転してくる場合というのもあるのしょうけれども、この一般車整理場の性質というものが駐車場ではなくて、ここで本当に乗り降りする方を一時的に、今でもそうですけれども、例えば30分以内無料みたいになっていますが、短時間で乗り降りしていただくようなお迎え、あるいはお送りするような場所になっているので、配慮はたしかにあったほうが、それは無いよりはいいのだとは思いますが、どこまでできるかについては、今はお約束できないと思います。また設計事務所と話をしてみますけれども、簡易なものでも、たしかに雨、雪が防げたら、それは本当にいいかと、ここでご指摘を受けて思っておりますので、少しお時間をいただきながら、ここについては少し検討させていただきます。

(平山委員)

よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。

(委員長)

ありがとうございます。ご検討をお願いいたします。ほかに、ございますか。窪田先生、お願いします。

(窪田委員)

窪田です。いくつか質問なのですけれども、まず一つ目は、いただいた資料がすべて二次元的なCGであったり絵柄だったりするのですけれども、市役所の皆様は三次元的な、いわゆる模型できっちり押さえていらっしゃるのでしょうか。

(事務局)

三次元のCGも実は製作中でございます。

(窪田委員)

CGはやはりあくまでも二次元なのですね。つまり模型を使って、今回はコロナだったので、しょうがないのですけれども、やはりこれは、みんなでこれを囲みながら本当に可能なのかどうかというか、できているのかどうかということを、やはり模型を使って確認する必要があるのではないかなという事は強く思います。例えば、東大通からのビスタと、それから、こちら側の植栽にあるバッファーというものが両方とも書いてありますが、それがもちろん文字上ではそれが成立しているけれども、それを成立させたいということは分かるのですけれども、本当にそれが成立しているかどうかというか、そういうふうに見えるのかどうかということを少なくとも委員のメンバーはそれを確認しないとイケないのではないかなと。例えばここです。これが向こう側からのビスタというものから、どういう魅力的な駅前空間というものが見えていて、だけれども、いる人にとっては緑のバッファーができているのかということは、文字上では分かるのですけれども、これは多分、CG上でもそういうふうには見えるように見えてしまうのですけれども、やはり模型で確認する必要があるのではないかなと思います。

あとは周辺がどうしたって、駅前周辺はゴチャゴチャというか、いい意味なのではけれども、やはり活力もある分、いろいろな看板が出たり、いろいろなことがガーッとある中で、ここがどれだけホッとした空間を提供できているのかということも、周辺模型の中において初めて、もう少しこっちが緑なのではないかというような、そういう意見と言いますか、多分、設計者さんたちは、それはさすがにやっていらっしゃるかと思うので、別に見せるための模型ではなくてもいいのですけれども、そういう模型を皆さんで囲んで議論する必要があるのではないかなということが1点目です。

それから、2点目なのではけれども、ベンチ型にして里山のというようなことなのですが、具体的にはどういうシチュエーションの中でベンチに座っているような感じがあるのかというのは、どのようにお考えなのでしょう。待ち合わせみたいなことが書いてあったのですけれども、そういうことなのですか。

(事務局)

ありがとうございます。1番目の模型については、設計者のほうで模型は多分、作ってはいないと思うのですが、かなり作業が多い中で、図面上、そして3DのCGは今、作っていますけれども、こういったところで確認をしながら進めてきたというのが実態でございます。

ご指摘のように、実際に模型のようなものを囲んで議論するといったようなことは、たしかにあれば、それは本当にそうあるべきなのかもしれませんけれども、現状は申し訳ないのです

が、それはしておりませんで、3DCGを逐次作ったり、パースをコンピュータ上で出力しながら作業を進めてまいりました。

それから、里山のあり方ですけれども、これについては待ち合わせのほかに、やはりそこで少し時間を消費していただく、あるいはちょっとした天気の良い日はそこで読書ですとか、若干ノートパソコンやタブレットでお仕事をしていただけるような、そんなふうな設えも考えておりますし、また、そこを歩くだけで気持ちがよくなれるような設えといったようなところを考慮しておりますので、樹木の配置、それから花が咲く、香りがする樹木といったようなものを現在、選定しながら設計を進めております。

(窪田委員)

ありがとうございます。例えば、今おっしゃったような、ここは実はそんなに大きなサークルではないわけですね、一個一個のベンチとか、一個一個の緑のセットというものは。たしかにこれだけで見ると、ここにいるのは心地よさそうにも思うのですけれども、やはり周辺にはそれなりの交通量があったり、ビルで囲まれている中で、本当に気持ちいいのかどうかというところは、もう少し確認する必要があるのではないかと。個人的には、やはりCGよりは、むしろ模型のほうが重要なのではないかなとは思いますが。今までの経験からいっても、例えば大宮駅の周辺でも本当に大きい模型を何回も作っていただいた中で議論していたという経緯もありますし、渋谷駅もそうでした。

もう少し言うと、これが気持ちよく座れているときというのは、どの季節の、どの時期なのかといった、カレンダーみたいなものですよね。雪の間はどうなのかとか、ミストというのも、たしかに夏はすごく気持ちいいし、あったら、すごく素敵だなとも思うのですけれども、それがいつの頃の、どういう状態の中でうまく機能するのかといったら、時間軸に沿った変化みたいなものを、たしか資料2の27ページ辺りに、そのような変化について記述していただいたと思うのですけれども、こういう感じをもう少し作っていただけると理解が進むかなと思えました。

最後にしますけれども、もう一個が、こういう感じで、災害時というのは何かお考えのことがあったら教えていただけますか。災害時のマネジメントも含めて、先ほどから、委員の皆様からもマネジメントの話が随分出ていると思うのですけれども、災害時に何人くらいの方がここに退避するのかどうか、とかという辺りは、どんなお考えがあるか教えてください。

(事務局)

ありがとうございます。先ほど来の模型の件ですが、たしかにおっしゃることは分かりますので、最終的に実設計が完成するまでにきちんとしたものではないにしても、スケールがヒューマンスケールとして、本当に心地よい空間になるのか、使いやすいのか、そういったところ

を設計事務所と少し検討していきたいと思います。ありがとうございます。

それから、災害時ですけれども、私どもも先ほどイベントというようなことで話をさせていただきました。今、画面に出ている 27 ページの辺りのテントですとかステージの絵がありますが、このテントをいくつか張ったような絵がございますが、その辺りに給水、それから電気の配線なんかがいけますので、現在、まだ災害時にどういった施設をここに立地させるかについては決まっておられませんけれども、そういったインフラのようなものを使いながら、一時的な避難ができるといった場所にはしたいと考えています。何しろオープンなスペースですので、例えば冬場の災害で、ここに退避ができるのかといったようなことについては非常に難しいと思っておりますけれども、例えば救援の施設をここに作るのか、そういったところも、これから市の防災組織等と検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

(窪田委員)

よろしく願いいたします。ありがとうございました。

(委員長)

ありがとうございました。模型の件も前向きに検討いただくということと、やはり使い方を具体的に、時系列も含めてやっていただけると、よりよくなるかなと思えました。どうもありがとうございました。他に何かございますか。柘津所長、お願いいたします。

(柘津委員)

新潟国道の柘津でございます。よろしく願いいたします。私は国道事務所でございますので、少し繰り返しのようにはなりますけれども、まずはこの万代の人の動線、それから車の動線をしっかり確保していくといったことが大事だと思っておりますし、市のまちづくり推進本部も、東大通の社会実験をされるということですので、連続性のある形で人の流れを創出することが非常に大事だろうと考えています。現計画の万代広場のところですが、今、ここで整備・実施計画をしていただいたうえで、どうプロデュースしていくのかということが非常に大事なのかと考えています。それはもちろんまちづくりもそうですし、観光ですとか、ビジネスチャンスをどう創出するのかといった観点もあるかと思っておりますので、これは今実施計画をした中で、どのように今の時代に即した形で、例えば若い人たちがここにどう滞留してくれるのか、またはこの空間で、どのようなビジネスができるか、してみたいかというようなプロデュースをしていくような検討が必要かなと思うのです。

そういう中で、時代に即したという形で申し上げれば、例えばデジタルといった観点で、この空間をどう活かすかという視点もご検討いただけたらなと思っておりますし、我々も一緒にやらなければいけないと考えております。今、どちらかというハード面の検討をされているのかと思っておりますが、そういったプロデュースというか、今の時代に即した形での検討も付加したうえ

で、賑わい創出やビジネスチャンスをどう創出するかといったことにつなげられるかなと思いますので、また引き続きよろしく申し上げます。同じ道路管理者としての意気込みも含めて、コメントみたいになりますけれども、何卒よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。柵津所長のご指摘どおり、新万代広場と東大通、そしてその先へ、人の流れをしっかりと続けていく、そして今後、ご一緒に協議させていただくことになると思いますけれども、車の流れをどう持っていくか、この辺、一緒に今後の次の時代を先取りしたような形で作り上げていければいいと思います。また、次におっしゃったビジネスですとか観光の面で、ここからさまざまなビジネスが生まれるですとか、あるいは観光においでになった方が、ここでいろいろな情報を持っていけるといったようなことと併せて、まだこれからできる部分、例えばサイネージですとか、5Gの活用ですとか、そういったところも、まだ現在、検討中のところがございますので、できるだけ、そういったところに力が発揮できるような施設にしていければと思っております。一緒にご協力いただければと思います。ありがとうございました。

(委員長)

ありがとうございました。ほかに、ございますか。皆様一回はご意見いただいたみたいなので、次の「その他」について、事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは、その他について事務局からです。当委員会でいただいたご意見などを踏まえまして、今後、万代広場の整備を進めさせていただきますが、今回、取りまとめさせていただきました設計内容につきましては、本日、皆様からいただきましたコメントを整理したうえで2月18日に市長から報道発表させていただく予定としております。その際には、佐野委員長からもWebでご参加していただく予定としておりますので、委員の皆様もご承知おきください。

また、当委員会につきましては、基本的には今回をもちまして終了とさせていただきます。長い期間にわたりまして、ご協力いただきまして、大変ありがとうございました。事務局からは以上でございます。

(委員長)

ありがとうございました。最後に、委員の皆様から全体というか、今回だけではなくて最初からでも構いませんので、全体をとおして何かご意見がございましたらお願いしたいと思いますが。

無いようですので、以上をもちまして、議事を終了いたします。議事進行を事務局にお返しします。

(司 会)

佐野委員長、どうもありがとうございました。

それでは、閉会にあたりまして、新潟市都市政策部長の柳田よりごあいさつ申し上げます。

(都市政策部長)

本日はお忙しい中、委員の皆様には本検討委員会にご出席を賜り、貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。また、皆様には日頃より本市が進めております都市政策行政について、多大なるご尽力とご協力をいただき、心より感謝と御礼を申し上げます。

さて、本検討委員会は平成 29 年度から長きにわたり、数えて全 9 回開催し、当初計画の「人、交通、自然が気持ちよく循環する都市の庭」という基本のコンセプトを継承しながら、新潟市 8 区の水と緑のつながりをテーマに加えて検討を重ね、皆様から貴重なご意見をいただきながら SDG s や脱カーボン、バリアフリーやジェンダーレスなどに配慮した基本・実施設計を取りまとめることができたものと考えております。

今後は、取りまとめた設計をもとに広場の整備を進めまして、新潟の陸の玄関口として本市を訪れたかたには新潟の魅力を感じてもらえるような、また市民には愛着を持ってもらえるような緑あふれ、人々が憩い、集う広場にしていきたいと思います。

万代広場に係る本検討委員会につきましては、時間的な制約もありまして、今回で一旦終了とさせていただきます。他方、今後も新潟駅の周辺をはじめ、本市のまちづくりについて、ご意見などをいただきたい場面では、改めてお声がけをさせていただきたいと思っておりますので、お力添えをお願い申し上げます。甚だ簡単ではございますが、閉会のあいさつとさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

(司 会)

以上をもちまして、第 9 回新潟駅万代広場等整備検討委員会を終了させていただきます。本日は、大変ありがとうございました。